

調査研究委員会 公民館視察訪問

訪問先 社北公民館 若杉4丁目308 TEL:35-9111

世帯数 3,561 人口 8,393 (2023.9.1 現在)

訪問日 令和5年9月12日(火) 13:30 ~ 15:00

参加者 10名



視察研修も
円形に座って
実施

当日の流れ

- ・運審連 田安会長あいさつ
- ・生涯学習課 松浦主事あいさつ
- ・社北公民館 笈田委員長 社北地区の概要について
- ☑現在は人口微増。地域を維持していけるかが最大の課題。
- ☑地域間競争ではなく、共存・共栄の考え方で取組を進めている(主事の思いが地域を支えている。)
- ☑令和3年度制作 社北公民館創立40周年記念映像 視聴
- ・社北公民館 田中主事「アフターコロナ 新しい形に進化した地域事業」について
- ☑コロナ禍以降、運営審議委員会をラウンド式で開催。(誰でも発言しやすいように)
- ☑地区事業が開催できない状況が続く中で、安心して開催できる地区事業の形を検討委員会で模索。
- ☑各団体と問題点を整理し、新しい地区事業(フォトゲイニング、オープンカレッジ社北など)を提案。
 - ・質疑応答・意見交換
 - ・調査研究委員会 中川委員長から謝辞
 - ・集合写真撮影
 - ・館内見学



アフターコロナ

新しい形に進化した 地域事業について

運審連副会長

文殊公民館 運審委員長

中川 治

令和5年度の調査研究委員会の視察訪問を社北公民館で開催しました。敬老会準備等でお忙しい中、快く受け入れていただきました。また厳しい残暑の中、調査研究委員他多数の参加をいただきありがとうございました。

今回社北公民館へ訪問をお願いしたのは、メディア等にもとり上げられた地区体育祭に代わる「フォトゲイニング」を実施された経緯等を学ぶことでした。

視察訪問の概略は下記の通りです。

①社北公民館40年史PV鑑賞する
過去も数々の新規事業を試み、成功を収め高い評価を得ておられる事に感服致しました。

なかでも、西部緑道イルミネーションは、平成21年に地元の社中学校の1年生の提案が始まりであり、なおかつ当時の生徒が今は他の地区民であるにもかかわらず交流が続いていると嬉しそうに語って下さった田中主事の“熱さ”が印象的でした。12月4日現在の人気イルミネーションランキングで、福井県で3位、北陸地区でも8位にランキングされています。感動でした。

②新しい形に進化した地域事業について学ぶ

アフターコロナに向けて地区事業検討委員会を設置され、地区体育祭をはじめとする数々の事業について、目的・意義・問題点等が深く検討されました。その中の一つが地区体育祭に代わる事業である【フォトゲイニング】です。自治会の枠を超えた事業であり、若い世代を巻き込める企画だと思いました。また、新規事業は必ず3年は続けるという強い覚悟も素晴らしいと感じました。

次の機会に、事業が成功・拡大することによる問題点・解決策(地域住民への人的・金銭的な負担増)等についてご教示くだされば嬉しいです。

最後に、ご協力いただきました社北公民館の関係者の方々、並びに参加いただきました役員の皆様、本当にありがとうございました。貴重な学びの場をいただき感謝申し上げます。



参加者からの感想

「社北地区視察訪問」に参加して

湊公民館 運審委員長 藤田 和也

新型コロナをポジティブに捉え、時代・社会の変化の中で地区事業を元のかたちに戻すのではなく、地区の歴史を検証しながら時代に合わせて変えていくという方向性が、すばらしいと思いました。公民館とまち協が中核になって地区をまとめ、将来地区を支えていく子どもたちから高齢者まで、地区のあらゆる世代を主人公にした地区独自の事業や他地区と共同事業を展開しており、さすが社北地区との思いを新たにしました。お忙しい中、対応していただきました笈田運審委員長、田中主事に、心より感謝申し上げます。



創意工夫の大切さ

中藤島公民館 運審委員長 清水 正寛

コロナ禍の経験を活かして行事内容を大きく見直し、体育祭を「あるこっさ社北！」に変更、区内にある桜並木や西部緑道がフルに活用されていました。また、各行事も自主的に参加者が集うよう内容が工夫されていたほか、地域内の写真を多く集めるイベントが組み込まれているなど参考になることが多くありました。視察を通じ創意工夫の大切さを教えていただき、ありがとうございました。



コロナ後の地区行事の在り方

日之出公民館 運審委員長 松平 久芳

今回の社北地区視察訪問では地区行事のコロナ後の在り方について学習させていただきました。体育大会に代わるフォトゲイニングなどの新しい取り組みをはじめ、いくつも大きな気づきをいただきました。また既存の枠にこだわらない姿勢にはたいへん感心しました。地域コミュニティの絆は緩やかであっても必要不可欠なことは若い世代の方々も感じています。いろんな「きっかけ」を作り地域の輪に若い人を巻き込んでいくことの重要性も痛感しました。



アフターコロナで地区事業の刷新

東安居公民館 運審委員長 小鶴 敬司

コロナ禍で地区事業が困難になり、地域交流の場が危ぶまれてきた中でイベントなど変更により大きく舵を切ったことに感銘を受けました。具体的には、体育祭やサマーフェスタから「あるこっさ社北!」「桜まつり」8月は「サマーイルミネーション」に変えて屋外空間を拡大し、コロナ対策に配慮。そして「フォトコンテスト」など組み合わせる等工夫がなされ、大変参考になりました。

また屋内中心の敬老会は状況に応じてスペースをとって開催する、公民館まつりは「オープンカレッジ社北」として、体験学習、コンサート、ワークショップなど新しい企画で開催するなどの工夫が参考になりました。そして、何よりも地区事業が刷新されて、マンネリ化を脱出出来たことが大きな成功に結び付いたものと思いました。



社北公民館視察訪問 当日の様子